

シャッターチャンス



福寿草



福寿草は、春を告げる花の代表です。元日草（がんどつそう）や朔日草（ついたりそう）という別名ももっています。福寿草という名も新春を祝うステキな名です。花言葉は、永久の幸福、思い出、幸福を招く、祝福…とにかく縁起がよいです。雪の中から顔を出す黄色い福寿草は、幸せを感じます。(hino)



カスピ海 ヨーグルト



グルメリポート

勝手気ままなマイブームは、ヨーグルトなんです。いろいろと市販されていますが「カスピ海ヨーグルト」が気に入っています。名前もよいのですが健康によいみたいです。



もともとカスピ海ヨーグルトを知ったのは、京都大学の家森先生の書籍からでした。黒海とカスピ海に囲まれたコーカサス地方で飲まれているようで、この地方の方は、血圧や血糖などととも健康な数値らしいのです。

以前は、入手が困難だったのですが、フジッコ（豆のイメージが強い）が発売しました。味も美味しくてよいです。(hiro)

仕事は「捨てメモ」で うまくいく 相葉光輝 著

ちょっと話題になっていた「捨てメモ」を読みました。納得できる内容でした。最近の若い人たちは、なかなか自分の考えや企画を出せない感じがしていました。この本を読んで、そのヒントを感じることができました。

そして、私も「捨てメモ」を実践しなければと・・・でも、少しは実践していたかなあ。この本は、学生が読んでも良いと感じましたが、社会での経験がないと理解できないかなあ (hiro)



私の好きな映画『雷桜』

あまり評判が良くなかったらしいのですが、良い作品だった。

身分が違う二人が引かれていく純愛だ。

時代劇にありがちな設定ではあるが、なぜか共通する境遇があり、見ている自分も共感していく。

「雷桜」という題名が、ひとつのポイントになるのだが、作品自体が自然の美しさがあって良い。

この「雷」と「桜」という、真逆の言葉だが、これがまた良い。

共通するのは「愛」である。それぞれの立場の「愛」である。時には、いのちをかける「愛」もある。そして、人は、一人では生きてはいけないものだ。人の「愛」が重くなることもある。

最終的には、この二人がどうなるのか・・・

私が想像していたのとは違った。(hiro)



俳句

- 目に浮かぶ思いはひとつ年忘れ（高香）
- 空からか誰れを呼ぶ声福寿草（高香）
- 寒の月胸焦がすほど語りかけ（高香）

読者の皆さまからのご投稿 大募集！！
俳句・短歌・川柳・詩・創作・・・
絵画や写真などでもOKです。
お気軽にご投稿ください。

FAX 044-975-0836 メール info@daiku-san.net
TEL 044-977-2348

パソコン奮闘記 VOL. 4
パソコン購入相談



パソコン購入の相談を受けることがよくあります。実際にお店までご同行することもあります。

でも、いつも相談を受けると悩んでしまいます。大切なのは、パソコンを使う「目的」を決めることです。ところがこの「目的」って意外と難しいですね。

通常は、〇×電機や〇×カメラで販売されている中程度の商品で十分だと思います。そして、大切なのは、保証とサポートです。サポートの良いメーカーをおすすめします。

また、誤解されても困りますが、数年後に買い替えというのが当たり前の商品です。こだわりがなければ、高性能で、高価な商品は選ばなくても良いように感じます。

私は、通販で購入します。自分好みのパソコンが組み立てられるからです。でも、有料になるのですが保証は必ずつけています。(hiro)

おすすめ商品

ウォシュレット一体型トイレ GG



ツイントルネード洗浄で洗浄水量4.8Lを実現した節水型トイレでタンク式なのにローシルエット。

高さも奥行きもぐっとコンパクトになりました。

TOTO独自の洗浄方式「ツイントルネード洗浄」で、便器洗浄水量は4.8Lに。従来の節水便器に比べて約71%も節水し、水道代は年間14,100円もお得になります。家庭でできる節水を、世界の水資源の保護とCO2削減につなげます。

フチなし形状で、力を強く加えることがなく、汚れもサッとひとふきできます。お手入れしづらかった便器のフチをなくした、滑らかな形状。少ない水でしっかり流すトルネード洗浄を可能にしたフチなし形状は、環境にやさしい技術と同時に掃除もラクです。

タンク式便器だから、水圧を気にすることなく、設置の自由度が高いGG。そして、高さも奥行きもぐっとコンパクトに。従来のタンク式便器*の常識を超える、ローシルエットデザインが、トイレ空間に広々としたゆとりを生み出します。(hiro)



トルネード洗浄



hiroの気ままなエッセイ④

「あいまいな日本語」

日本語って曖昧だと日々感じる。この曖昧さで誤解が生じることも多々ある。いつも不思議に感じているのが「〜ほど」の使い方である。

「リンゴを5つほどください」と使うことがある。リンゴってそれなりの大きさがあるのだから、リンゴの場合「肉500グラムほどください」は、見てすぐに分かるからなので「〜ほど」の使い方は分かる。

この「〜ほど」と似ている表現が他にもある。

「5つくらい」や「5つばかり」である。

やはり、日本語独特の表現である。

この表現は、日本人気質として、直接表現や断定表現を好まない文化が、このような曖昧さを醸し出していると思う。

時には誤解を生むこともあるが、はっきりいえない、ほかすことによつてやわらかな表現になっている。相手への思いやりを感じることもできる。

このほかし表現の代表的なのが「〜ほう」である。

「りんごをみかんどちらが好きですか?」「りんごのほうが好きです」という回答をする場合が多い。

問いかけた相手に気を使っているのか? みにかに気を使っているのか?

日本語はこの曖昧さが大きな特徴であり、はっきりさせなくても互いに分かりあえるいわゆるこれが「察しの文化」である。

外国人のお宅を訪問したときに「何を飲みますか?」の問いかけに、私は遠慮がちに「水でも」というと、本当に水が出てきました。

確かに「自己主張」した方がよいこともありますが、この「察する」というコミュニケーションも良いのではと思う。